

235

特247

253



\*0000069000\*

0000069-000

特247-253

欧米記者は日本の非常時局をどう見てゐるか？

読書新聞社編集部・編

読書新聞社

昭和11

AAB

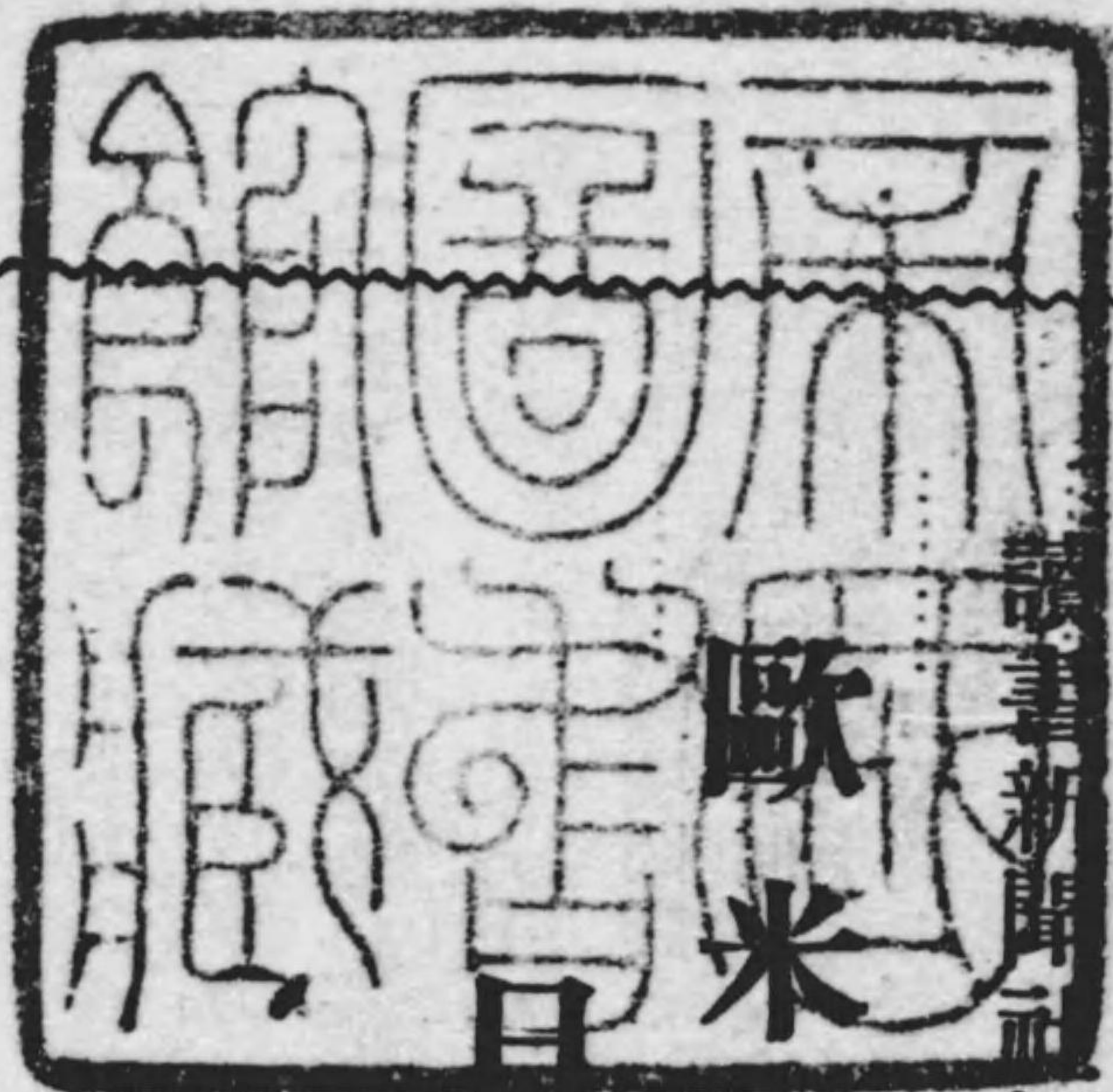
欧米記者は日本の非常時局をどう見てゐるか

10銭

読書新聞社版

3  
17

特247  
253



読書新聞社  
編輯部編

記者は

日本の重大時局を

どう見てゐるか？



目次

一、日獨同盟説と各國の新聞論調	五
蘇聯邦	五
氣掛りな日獨同盟説	五
佛國	七
日獨同盟を評す	六
日獨同盟説を信ず	七
米國	八
敵本的「日獨同盟」	八
二、日ソ關係の危機に關して	九
支那	一〇
日本の大陸政策とソ聯邦	一〇
蘇聯	一三
國境問題と日本の態度	一一
滿蒙國境紛争事件の真相	一三
日本側の捏造説	一五
英國	一六
日蘇間の緊張	一六
米國	一九
極東再び咄く	一七
日本北方に注目す	一九
佛國	二一
日本空軍が出勤準備説	二〇
日蘇兩國戦争を欲せず	二一
衝突の必要なし	二二
蘇聯邦は日本の發展を阻止するな	二三
支那	二四
戦は避け得られる	二三
日蘇兩國の陰謀に警戒せよ	二四
三、日支問題と海外の輿論	二五
日蘇戦争は支那の一大危機	二五
獨逸	三一
極東の危機と英外交	二五
蘇領極東の戦備	三一
天津	三二
日支外交の展望	三二
日支問題の複雑性	三三
上海	三四
日支交渉開始の鍵	三三
日支國交調整の要提	三四
米國	三六
日本は何を欲するか	三五
孤立せる日本の行方	三六
四、日本商品と世界市場	三九
米國	四一
廉價日本品の競争を見直す	四一
日本との貿易競争は決して憂ふべきでない	四一
五、廉價日本品の秘密をつかむ	四三
（日獨通信主筆アルビト・バルグ）	四三
六、平然と天災に堪へる沈着な日本人	四八
（同）	四八
七、日本に於ける金満家	五三
（同）	五三
八、士道を失はぬ日本の商賣人	五六
（同）	五六
九、日本人の行樂花見に就いて	六一
（獨逸記者）	六一

## はしがき

世界の現段階に於ける日本の立場は誠に鮮やかなものであり、今や世界各国の注視の下に内外共に非常なる時局を處理しつゝあることは吾々日本人には最も痛切に感ぜられる。

×  
外國人の日本に關する認識には往々にして誤れる事も多いがしかし場合に依つては當事者より第三者の立場から割合に問題の機微に觸れた批判が聞かされることも多い。

×  
吾々日本人としては凡ゆる角度から非常時を認識し、あやまりなく善處する事は最も緊要な事だと思ふ。本冊子は各國の著名新聞雜誌に現はれた日本に關する代表的な諸説を翻譯掲載したものである。

×  
これに依つてよく取捨選擇し、認識不足はこれを補ひ、正しき認識に對してはこれを活用すると云ふ事は非常時下の國民の義務だと信ずるものである。

## 日獨軍事同盟説と各國の新聞論調

日獨軍事同盟説は一時世界各国に一大センセーションを捲き起し夫々新聞面を賑はしたが、その要旨に關しては各國とも見解を異にしてゐる。重なるものを擧げれば次の様なものである。

### 氣掛りな日獨同盟説 (ソ聯イズウエスチヤ紙所載)

日獨相互に相手國の政策に異常の同情あるは兩國に相互援助の用意ある證左なること周知の通りであるが假令兩國の軍事關係が日本軍部内の冒險分子を満足せしむるとしても、日本に財政的援助を與へ得ない獨逸の立場を能く諒解せる日本ブルジョアの穩健派を到底十分に満足せしめ得ない。倫敦軍縮會議は英米の離間を策するは目下日本に取り不可能なる所以を暴露した。永野提督の會議脱退は意味深長なるものがある。日本は自力を以て全支那の獨占的把握を行ひ之を制限する如何なる妥協にも應ぜざることを示した。日本陸相は對支外交に關し外務省の機能を合法的

に軍部の手中に収めんと試み居り、既に軍部は有吉大使を辭任せしむることに成功したが、更に他の外交官等をも排除せんと目論みつゝあると云ふ。外蒙及蘇聯國境に於ける日本軍部の不斷の挑發は日本將軍中に所謂支那征服の大任務以外更に蘇聯攻撃の無分別なる計劃を懐くものなきかを危惧せしめるものである。

#### 日獨同盟説を評す (佛國タン紙所載)

最近又復日獨同盟説が流布されてゐる。一九三四年以來兩國に接近論者の活動あり又〇〇將軍一行の訪獨を機會に獨逸化學工業と話合成立し、獨逸經濟使節の滿洲訪問等の事實はある。而かも當初日本の希望せる滿洲國の法律的承認を肯じなかつた爲爾來雙方氣乗薄となり、殊に獨逸側に於てもヒトラー總統の「我が闘争」中の對英、伊、接近必要論にも見得る如く假令日獨同盟は反共產主義の爲と言ふも本件同盟の英國に及ぼす影響を顧みて之を躊躇するに至り、更に最近のト總統の所説、英獨海軍協定等を顧みる時、吾人は日獨政治關係は未だ軍事同盟を生むべき事態に迄發展してはゐないと思ふ。

吾人の見解に依れば、英、米對日獨同盟の如き誤れる政策が進めらるれば却て日獨の政治的接近を可能ならしむべく英米接近論は佛國にも存在するが他國の力に依つて日本の競争より逃れんとし又英米接近は支那に有利なりと言ふが如きは其の無智濟度し難い。太平洋問題の荒療治は必ずや英米外の極東に利害ある諸國迄も争に捲込むべく、從て吾人は此の種の日本及其の大陸發展阻止手段に關する短見を排すると共に、日本をして絶望に至らしめざる爲對日經濟協定の必要を主張するものである。

#### 日獨同盟説を信ず (佛國ウーヴル紙所載)

塊地利問題では英國政府が最近佛國政府同様、集團的安全保障説に傾きつゝあるは明らかであり、ライン再軍備問題に關しては英帝御大喪に際し行はれたノイラート・イーデン獨英兩外相會談でも何等明答を與へてゐない。又對日問題に付いては最近ダーリング獨逸空相がベツク波蘭外相との會談中、英獨協商無くしては獨佛協調の不可能なること及び英、佛、獨、波、伊、五文明國間に同盟組織の必要なること等を主張して獨波協調を説いた後「英國は極東に於ける利害關係

の爲親日の已むなきに至らう」と述べてゐるが日獨間には既に去る一月四日廣田外相とフォーン、  
デイルクゼン駐日獨逸大使との間に攻守同盟の要素を含む日獨友好條約が署名された事は獨逸政  
府の否定如何に拘らず確實で、今更驚くには當らない。近く我々は其の詳細を報じ得よう」

#### 敵本的「日獨同盟」 (米國紐育タイムズ所載)

「英國外務省に於ては日獨相互防護條約成立説に關し日獨兩國に依る否定を以て不十分となし眞  
相調査を開始した趣であるが、消息通は日本の眞の目的は獨逸に非ずして佛國との協定に在ると  
觀測してゐる。右は倫敦會議中日本全權が佛國全權と密接を保つたのに徴して明かであり、又目  
下日本が支那に於て遂行しつつある膨脹政策に鑑みて首肯し得る。日本の地位は太平洋方面より  
の支那への接近を遮る障壁を形成する而も華府條約中の太平洋諸島防備制限條項の存續中は右障  
壁の効果は半分に過ぎないが、日本は條約の失效を俟ち臺灣に有力なる海軍根據地の設置を計畫  
しつつあるが故に右實現の上は日本軍の對支進出及南京、廣東の攻略は容易となるべく、香港も  
地中海に於けるマルタ島の如く無力となり、支那海に於ける日本の覇權は確立するに至らう。英

國消息通は日本の次期南進計畫は佛領印度支那に在りと信じてゐるが、同地方に於ては安南ナン  
ヨナリストが日本の力に依る解放を期しつつあるに對し佛國は之を防護すべき艦隊及軍隊をもた  
ぬ狀況故、若し佛國がパラセル島に海軍根據地を設定するに至らば新嘉坡の地位も著しく強化さ  
れようけれど、日本としては戰略上絕對に之を阻止せねばならぬ。日本外交官が過般巴里に於て  
極東問題に關し密接なる協調を求めたのは右の考慮より出たものである。日本は佛國に對する既  
引上獨逸との協調方針を利用することもあらうが、飽迄之を突張ることは英佛協調を促進し、佛  
國をして極東問題に關し英國に追隨せしむるの結果を招來すべく従つて突張りはしまし」

### 日ソ關係の危機に關して

日ソ關係の危機に關しては世界各國とも深甚の注意を拂つてゐるが、殊に支那紙は重大に取扱  
つて居る。其の代表的なものを掲ぐれば次の如し。

### 日本の大陸政策とソ聯邦 (上海時事新報所載)

日本の反蘇スローガンは北支に對し勢力を擴張し支那民衆の奴隸化を強めんとする煙幕であつて、又蘇聯邦が被壓迫民族救済を叫ぶは之を通じ自己の利益を擁護せんが爲である。支那の忍耐にも自ら限度あり日蘇兩國にして現在の政策を持続するに於ては、支那は其の領域の保善を防衛する爲適當の手段を執るであらう。日本は共同赤化防衛のスローガンを掲げ冀東を得たに満足せず、更に綏遠、察哈爾に對しても其の帝國主義的野心を伸ばさんとしつつある。吾人は帝國主義列國に對し、支那は將に危機にあり之れ以上の壓迫は列國自身の不幸となると警告せざるを得ないものである。

x

國民の一部には日蘇が事を構ふるは、支那の國難救済の唯一の途なりとか、甚しきに至つては蘇聯邦は既に東境に事を起した故支那は率先開戦すべしと叫ぶ者あるも、前者は國際情勢に通ぜず僥倖を願ふもの、後者は自ら甘んじて走狗たらんとするものである。日本は大陸に獨り覇を唱

へんとしつつある處、英米協調にして實現せんか、そは獨想に終るであらう。故に反蘇防共の煙幕を張り北滿に於ける事態の緊張をカムフラージュし、以て河北の併呑及河南への進出を覆ひ、而して世界に對しては自國は反ソ戦線の勇士にして東亞の安定は懸念なしと言ひ、英國保守黨の好感を得英米合作を阻止せんとするものである。他方ソ聯邦は即戦を欲せず、又即戦を決し得ざるは日本と同様で、其の宣傳の誇大なること及其の目的も亦日本と同一である。蓋しソ聯邦は支那の國難日に加はるに乘じ、宣傳を事とし民衆を煽動し狼狽せしめつつある。我支那の領域は右の兩極端主義者の獲鹿の地となり、何れが勝利を得るとも帝國主義の奴隸とならなければ即ち社會主義者の俘虜となり、侵略は不可避であらう。國難を救済するは畢竟我民族自身の外に無く、外力は頼むに足らぬことを覺悟せねばならない。

### 國境問題と日本の態度 (ソ紙イズヴェスチヤ所載)

在滿日本軍憲は近來屢々行はるる彼等の越境の事實を隠蔽し、國境衝突はソ側よりの襲撃の結果果滿領にて行はれ、總て誤解の生ずるは明確なる國境無きに依るやに宣傳し居る處、軍側としては

軍事豫算要求、愛國主義宣傳の關係上日ソ關係調節に反對で、彼の國境紛争解決混合委員會設置を發議した如きは、單に不侵略條約拒否に依りて廣く生じた惡評を減ぜしめんとせしに過ぎぬ右に對しソ側は羅馬尼、波蘭、其の他の間に存する例に倣ひソ、日、滿國境紛争豫防委員會設置交渉に應じた處、日本政府は軍側の反對に依り其の當初の主張を一貫せるソ滿國境不明を理由として國境確定委員會設置の必要を主張するに至つた。然るにソ滿國境は露支條約に基き明確に定められ、從て日本軍の來る以前に於ては張作霖の反ソ侵略政策時代にあつても國境不明を理由とする紛争は起らなかつた。關東軍側は北京條約第七條、奉露協定第三條を引用したが、右に言ふ國境劃定なるものは界標廢種せるもの復舊、界標の數増加等のみを意味し國境劃定に關するものでない而かも右兩協定は國境劃定の行はるる迄現在の國境を維持する旨と明定した。勿論場所に依り界標が廢種し又は消失し之が復舊又は其の數増加の爲技術的措施を要することはあり得ようが此の場合兩國共同し挑發行爲の壓迫なき平靜なる事態の下に於てのみ前記國境劃定を行ひ得るであらう。斯かる問題の根源は在滿軍憲の奉天、北京兩條約侵害即ち現存國境を尊重せず、對ソ襲撃に依り武力を以て國境を一方的に變更せんとするにある。尙日本側は奉天、北京條約の條項

を引用せる處右の外北京條約第六條、奉露協定第五條の遵守せられ居らざる事實がある。即ち滿側は白系團體に直接援助及庇護を與へ、現にイルクーツク及哈府に於ける過般の後方攪亂者裁判事件に徴するも彼等は滿側及日本特務機關に依り金錢武器を得た事實がある。更に奉露協定附屬書に白系露人の活動禁止若くは之が解職を規定しある處、果して日滿官憲は其の廣く使用し居れる白系露人を驅逐するの用意ありや。ソ聯政府は懸案解決の好意を有するも、それは相手方が同一程度の好意を示すことを條件とするものなることを忘れてはならぬ。

〔註〕 北京條約（一九二四年五月三十一日調印）の第七條及奉露協定（一九二四年十月八日調印）の第三條は共に國境劃定に關する規定である。北京條約第六條及奉露協定第五條は何れも相手國に對する反對行動を取締ることの規定である。

### 滿蒙國境紛争事件

モスクワ各新聞はウランバートル發タス通信として左の通報した。

「蒙側消息通は新京同盟通信が蒙側國境守備兵は二月五日「オランホドック」滿側監視所を襲撃



した由報じたことを打消した。尤も國境方面よりの確報に依れば、日滿部隊が一月十九日奪取せるブルンデルスを去る四、五軒の地點に於て二月四日及五日自動車及乘馬兵交々現れ、尙日滿部隊占領の監視所より蒙側監視所に向け四日夜發砲したが、遠距離なりし爲何等損害を與へずして終つた由である」

又モスクワ各新聞は左記ウランバートル發タス通信を掲げた。

「情報に依れば、二月十二日朝七時五百名の日滿部隊は貨物自動車二十臺、乗用自動車一臺に分乘し、輕機關銃及砲を携行し戰車二臺、飛行機二臺の掩護の下に蒙古國境を越え國境内七軒なるブルンデルス蒙側國境監視所に襲來した。蒙古監視兵は頑強に抵抗したけれど日滿側は五倍の優勢に在り、且迂回包圍の勢を示せる爲輕砲一、機關銃一を遺棄して退却した。日滿部隊は之を追撃して蒙古内に入ること十乃至十二軒に及び其の後蒙兵は應援隊を得て侵入部隊を撃退したが、右衝突に於て蒙側は死者一、傷者七を出した。日滿側損害は死者十を下らざるべく傷者亦二十に及ぶ模様である。本件に付蒙古政府は滿洲國政府に對し電報にて嚴重抗議し、事態の急速調査、責任者處罰、將來に對する保障を要求した」

### 日本側の捏造説 (ソ紙所載)

イズヴェスチャ外一、二新聞は「日本側捏造説の皮剝がる」との見出を以てウランバートル發タス通信として左の如く報じた。

「東京日日新聞哈爾濱通信員は、八日蒙兵六百ヘルムト方面に於て日本側國境守備隊を襲撃し、交戦の結果双方に多大の損害を見た」と報道した由の情報ある處、蒙側地方官憲は右報道の徹頭徹尾虚構にして、同地方に於て二月八日は勿論其の前後に此の種衝突の絶対に無かりし旨を確言した。日滿側最近の侵略は二月九日午後五時ヘルムトを去る二百軒ブルンデルス地方ポイル湖附近に行はれたもので、トラツク六臺、乗用自動車一臺に分乗せる日滿部隊は蒙側前哨襲撃の目的を以て十軒の蒙領内地にある右前哨所屬の馬匹を掠奪せんと試みたが蒙側守備隊の銃火に依り撃退せられ國境方面に逃走した。斯くてヘルムト事件の報道が全然無根なるを知るべく、更に蒙側が過去に於て此の種衝突の回避に努め、將來亦之を避けんと努力しつつある證據歴然たるものがある。

然るに日本軍閥は侵略に次ぐに侵略を以てし、時にはハラ湖事件の如く蒙領内に侵入二十五軒以上に及び、國境標識の破壊、前哨の襲撃等を敢行したが、日本新聞は其の都度之を以て蒙側部隊の襲撃に對する滿洲國の自衛行爲として描き出さんと努めた。然し今回の日日新聞哈爾濱報道は此等虚構の記録を遙に破るもの、それは發生せる國境事件の曲庇に非ずして完全なる捏造である。ウランバートルの消息通間に於ては右挑發的創作は之を以て日本軍閥が目下準備中なる更に大規模の蒙境侵犯を正當化する爲の論據と爲すの必要に出るものと解せられてゐる。此の種犯罪的準備の進行中なることは同じく日日新聞哈爾濱通信員の報する日滿軍の蒙古東境集中の事實を證明せるものである」

### 日ソ間の緊張 (英紙報道)

外蒙方面ソ滿紛争は昨今英國方面でも少からず注目せられ、就中ソ聯飛行機の滿洲國內襲撃に對する滿洲國側の警告、哈爾濱滿ソ交渉決裂等は同方面に關する日ソ關係の緊張として重要視され、主要報道としては東京よりの陸軍コムミュニケ、日本政府の態度、哈爾濱、新京よりのソ聯

飛行機襲撃に對する滿側の態度等に關するものがあり之に對しリガよりの報道として、ソ聯の外蒙に對する軍事的援助決定、紛争に關聯しての西伯利亞方面農民不滿緩和對策(カガノヴィツチ國防人民委員は右調査の命を受けたといふ)及モスクワよりの日滿軍五百の外蒙侵入説があり、又北平よりの察哈爾方面日本軍及庫倫方面ソ聯軍の強化工作等が傳へられた。

事件に對する英國方面の觀測としては主要新聞は未だ右報道に止めてゐるが、二月十四日路透社として、

イ、事件は未だ平和的解決可能なること

ロ、酷寒の季節が近く雪解を控へ戰闘時期にあらざること  
の二點より倫敦に於ては日ソ不開戰説が行はれてゐると報じ

又同十四日モスクワ電はソ側は事態を樂觀せるが如く、日本が佛ソ條約批准前後の恫喝を爲すもので、同條約批准後は事態に變化があらうとの觀測を報じ、更に十四日北平電は、日本が庫倫張家口間の隊商路を遮斷し兩地間の國際貿易を完全に閉鎖せる旨報する一方、二月十八日モーニング・ポストは、ソ側が外蒙に於ける軍事的地位強化の爲各方面鐵道の複線化を行ひつつある

こと及セミパラチンスク、ウリヤスタイ間及ウエルフネウージンスク、庫倫間に新線建設中で外蒙征覇が極東事態の鍵なりとせば右新線は重大役割を勤むるものなることを報じた。

社説としては二月十七日タイムスは十六日東京電（日ソ間短期不侵略條約締結説等）に關しソ側の極東に於ける軍事的地位が數年前より遂に強化せることを述べ、日本側和協的態度は嫌々乍らも關東軍の氣儘に遣らすことの危険を覺つた結果であらうか、ソ側は容易に讓歩しまいと論じた。

### 極東再び喧く（米國紐育ヘラルド・トリビューン所載）

「過去四年間、日ソ開戦の危機は少くとも今度で二十回目である。斯く週期的に危機を重ねては戦争は早晚避け難いと日ソ兩國政府も信じてゐよう。兩國は政治的にも人種的にも敵對關係に在り、且此の亞細亞の國境を隔てて取交はされる傲慢な言辭だけでも互に我慢出来ぬ位である。今回の滿蒙國境紛争問題が從來の紛争よりも重視されるのは、一に其の演じられつつある舞臺の特殊性に基く。蓋し此の地方は日ソ兩國の軍部に取つて非常に有利な開戦の口實を與へるからた。

滿ソ國境は、河川、湖沼山岳等の自然に依り條約上比較的明瞭に劃定されて居り、従つて第三者は何れが侵入者であるかを容易に判定出來、世界の輿論も斯かる侵略行爲に對しては誤認せぬ。然るに滿蒙國境は之に反し東亞に於ても其の最不明確な地方の一で、其の上に住民は一向國境に無頓着な遊牧民であり、而も時は正に零下六十度の酷寒の候である。斯かる狀況に於て日滿ソ蒙の間に夫々攻防上の默契が成立するならば誰にも尤もと首肯される如き戦争の責任者を決定することは不可能であり、其の間獨り北叟笑むのは兩國軍の宣傳係あるのみである。斯かる地域を選んだのは激化し行く紛争に新たな興味を附加したものと云はねばならぬ」

### 日本北方に注目す（米國クリスチャン・サイエンス・モンター紙所載）

「ヘルムト事件の出來は滿洲國國境紛争事件の繼續と延いて日ソ關係危機未だ去らぬことを示す日ソ關係は昨春以來依然停頓の儘で、ソ聯邦政府は北鐵賣却に際し讓歩は是で一杯だと云つた。然し本來ソ聯に對し一步も讓る氣色なき日本政府殊に關東軍首脳部はソ聯極東軍の縮少、滿蒙國境の確定及滿蒙間友好關係開始の三件を要求しつつあり、其の何れに對してもソ聯政府は應じよ

うとはせぬ。即ちソ聯政府は滿洲及朝鮮國境に集注した大軍を撤退せしむるの意なく、又滿ソ國境確定にも應じない。又外蒙は滿洲國との外交使節交換を拒絶し滿洲里會議は第一回も第二回も失敗した。其の後モスクワに赴いた蒙古國民共和國首相ゲンドン氏、陸相デミット氏其の他の高官はソ聯當局より非常な歓迎を受けた。外蒙はソヴィエト制度の下に外國人の入國を禁止して居り、従て現政府が何れ程民衆の信望を得つつあるか不明である。關東軍が西伯利亞を攻撃すれば大戦争となり、又支那へ進出するにも一大敵愾心に逢着せざるを得ぬ事を承知してゐる。然らば外蒙侵入は此等に比し遙に容易なのであらうか將又ソ聯との戦争を惹起しはせぬかは茲數ヶ月間の事態の推移に俟つの外はない」

#### 日本空軍が出動準備説 (佛紙掲載)

右紛争に關し、巴里各紙はアヴァス並タス兩通信社の電文を掲載するのみで何等批評を加へなかつた處、二月八日共產黨機關ユマニテは同問題に關する論説を掲げ、日本の蒙古進出及反ソ運動を排撃し、更に社會黨機關ポピュレールも同様社説を掲載、ソ聯政府は北鐵讓渡に見る如く戰

争回避に努めようけれど日本軍が外蒙に直接行動を開始する場合は極東の事態は急速に悪化するであらうと述べ、同十四日巴里新聞は路透通信、同盟通信、上海電報等各種の筋より滿蒙國境紛争事件に關して一、日本軍のオランホドツク占據、二、ソ國飛行機の日滿軍爆撃、三、哈爾濱に於ける大橋、スラウツキー會談の失敗、四、日本空軍の出動準備、五、日、滿、ソ三國調査委員會の任命に關する日本提案、六、ソ外蒙間の協定成立

等を報ずる外、伯林電報にてソ聯は今春日滿對ソ聯間に戦争勃發すべきを豫想し其の準備工作を爲しつつある旨を報ずるものもあり、又ユマニテは激烈なる反日的記事を掲載した。

佛國新聞界は最近數日間のソ日兩國關係の推移を重視し交々論説を掲げたが、ユマニテ紙は別としウィヴル紙、エールヌーヴエル紙も兩國關係緊張の責は日本帝國主義に在りと論評した。

#### 日ソ兩國戦争を欲せず (佛國タン紙所載)

「最近日ソ兩國間の諸紛争は滿蒙兩國國境の不明確に基く當然の結果である。日本政府は當初から國境の確定を希望してゐるが、ソ聯政府は第三國代表を境界確定委員會に介入させようと要求

する爲未だに話が纏まらない。従て紛争の責任を一方に歸するのは當らない。且日ソ兩國何れも衷心戦争を欲せざることに注目せねばならぬ。成程日本政府は目下共同戦線の強化に努力してはゐるものの、さりとてソ聯政府が日本と戦へば國內に暴動の勃發を免れず、日本政府も亦財政經濟上の困難に加へ北支那の建設事業を控えて居り、兩國共公然たる戦争を始めるには至るまい」としてゐる。

### 衝突の必要なし (佛國エコドバリ紙所載)

「リトヴィノフ外務人民委員の日本訪問説はソ聯政府が一面極東の軍備を怠らざるにせよ、本來獨逸に對する政策を外交策の中心とする意思の現れである。日ソ兩國間の緊張は日本政府の蒙古に對する進出に基くにしても、結局相互に衝突する必要なきは日ソ兩國自らも熟知してゐる。更に最近日獨兩國の接近が傳へられたが右報道も亦根據を缺く。ソ聯政府が日本と争へば歐洲で小協商國、巴爾幹協定國の弱化従つて獨逸の強化を齎す反對に、ソ聯政府並米國政府が極東に干渉せぬ限り日獨兩國の接近は起り得ない。而も英國政府は日本政府との協議を求め、佛國政府は英

國經濟特使リースロス氏の支那訪問に拘らず専門家支那派遣の對案に乗らず、米國政府はスチムソン原則を取上げず、ソ聯政府も争に入らぬから極東平和の見透しは好調を呈してゐる。

### ソ聯は日本の發展を阻止するな (佛國ジュルナル紙)

「リトヴィノフ外務人民委員長が日本を訪問するとの報道は打診風説に過ぎぬ。一體日本政府が歐洲の分裂を利用せんとするのは進んで泥沼に入るの愚擧である。且日ソ兩國共他に重要問題を持つ故互に相争ふべきでない。日ソ兩國間の最近の紛争は日本の發展をソ聯が阻止せんとする事實に由來する。日本政府はソ聯政府との間に隔意なき諒解を求めてゐるがソ聯政府も亦今度右提言に考慮を拂ふに至つたものであらう」

### 戦争は避け得られる (上海ノース・チャイナ・デーリー・ニュース)

「土肥原少將は最近の滿蒙國境に於ける事件は何等重大でないと述べたが其の通であらう。日ソ兩國が事件の重要性を誇張してゐる如き形跡なく、兩國は却つて紛争を避けんとしつつあるが故

に事件は平和的に解決されよう。日ソ調査委員会組織の提議は即ち事件の危険性に對する憂慮を解かんとする意あるを示すものである」

#### 日ソ兩國の陰謀に警戒せよ。(上海時事新報所載)

「日ソ間には戦争に依る内外解決困難なる矛盾が多々あるけれど、日本の国力未だソ聯邦攻撃には不十分で、國內的には朝鮮、臺灣に〇〇運動あり、他方ソ聯邦亦第二次五箇年計畫完成せず又今直に外國と事を構ふることは自滅の惧あり、かかる事情故兩國は今直に開戦することはなからう。

日本最近の誇大なる宣傳は對支侵略を蔽ひ、又英米との對抗を緩和せんとするもので、ソ聯邦の宣傳は「ソ聯邦を守れ」のスローガンを以て被壓迫民族解放に置換へんとする術策に外ならぬ吾人は此の陰謀を警戒せねばならぬ」

#### 日ソ戦争は支那の一大危機 (上海申報所載)

「日本は軍閥財閥との間に多少の意見一致あるも、大體に於て内蒙及北支を根據地として反ソ戦争を起さんとしてゐる。日本は反ソ宣戰の危先鋒を以て自任しつつあるが、國際政治に於ける自國の不利なる立場を救はんとするもので、既に小數帝國主義者の賛成を得た。日本は又三國共同委員會の設置を提唱してゐるが、第三國の調停を拒否せる所より見れば、右は一種の虚偽的外交姿態と言ひ得よう。日ソ戦争は日露戦争同様滿蒙を舞臺とすべく、戦争一度勃發せんか支那の邊境は蹂躪せらるるのみならず全國亦危険に瀕するであらう。

#### 極東の危機と英外交 (獨逸フランクフルテル・ツァイトング誌所載)

歐洲以外には目下二つの低氣壓がある、一は回教諸國則ち小亞細亞地方の渾沌たる情勢であつて、他は日本の膨脹政策である。殊に警戒を要するは極東に於ける日本の行動であつて、目下日本となして居ることは偶然の結果ではなくして豫め遠大な目的を有し、着々として之を實行に移

しつのである。之に依つて直接の影響を蒙るものは英、米、露三國であり、三國の内でも最も苦痛を感じるのは英國である。露西亞は領土の狭きを憂へないから、止むを得ざる場合には極東に於ける領土を放棄する覺悟をきめればそれですむ、英國に至つてはさう簡單に行かぬ、英國にして一旦中部支那に於ける根據を失ふに於ては、印度、濠洲は既に英國の領土でない。

日本の政策は活潑を極め、最近の大陸進出は既に北支、滿洲、蒙古より露西亞の勢力を驅逐し今や浦鹽をさへねらつて居る。浦鹽は露西亞にとり日本を襲撃すべき場合の根據地たるところである。露西亞は之に對し西部部隊より切り離した有力な極東軍を派して萬一に備へて居るが、他方露國は北支滿蒙に於て失ふたるところを西部支那に於て償はんと欲し、昨今著しく新疆方面への進出を示しつつあり、之れ同時に印度北境に對する露西亞の壓迫を意味するものであつて、英國としては頭痛のたね、たたらざるを得ぬ、何となれば露西亞の印度洋進出策は舊帝政時代と今日とに於て毫も異なるどころなきが故である。

小亞細亞則ち近東の情勢は極東のそれよりも更に複雑なものがある。然りながら此の方面は未だ事變が爆發を見るまで切迫して居ない。従つて英國にとりて當面の問題は近東よりも寧ろ極東

である。ここでは目下日露兩國が反目の状態にある。これ英國の利とするところであるが、日露の關係は極めて微妙であつて、飽くまで争ふつもりか或は又中途で手を握るのか、その邊の見透しがつかぬが、どちらになつても英國としては安閑としては居られない、消息通の間では日露は遂に提携するであらうと見る者が多い、かうなれば英にとりて二重三重の危険である。従て英國としてはどちらかの一方を味方とし、兩者の接近を阻止するの必要がある。而て昨今の情勢より看れば英は寧ろ露西亞に接近するを得策なりとなして居るものやうである。露西亞がポルシエウイキであることは英の欣ばざるところであるが、極東に於ける日本の膨脹を阻止する爲め、他に適當なる國がないとすれば、英は之と結ぶに何等のこだわりをも感ずるものでない。

我等は徒らに揣摩臆測を逞うする者でない。英の外交が露西亞接近を劃策しつつあるは事實であつて、歐洲問題に對する英の出所進退が又明かに這間の消息を語つてゐる。過般英國は突如エチオピアを犠牲にするが如き和協案を提出し、少からず關係諸國を驚かしたものである。之れ則ち英國がエチオピア問題の解決にいかにつけて居るかを示すものであつて、エチオピア問題の解決を焦る所以は、極東に力を専らにせんとの意圖に基くものである。極東に事を構ゆる日本とし

ては英國が成るべく永く地中海や東阿の問題に引つかかつて居て呉れた方が望ましいが、反對に倫敦のフォレン・オフイスでは成るべく早くエチオピア問題を片づけなければ、他の方面へ手が出せない。此の如く歐羅巴に對する英の外交は常に他の方面、殊に目下の場合では極東に對する政策を顧慮して動くのであるが、その最も明瞭に現はれて居るのは歐羅巴に於ける英の對露政策である。英國では嘗てチャーチルの如き、最も手ひどく露西亞を排撃したものであるが、今日の英國は露西亞が軍備を擴張し、軍事的に強くなることを希望してゐる。今日では英國内で露西亞の軍備擴張に反對するものがなく、又ボルシエウイズムを云々する者もない。蓋し露西亞は世界革命を企圖するものであり、又國としては歐羅巴諸國と密接な關係を有するものであるが、英國の露西亞を觀るのは世界革命の角度からでもなく、又歐羅巴の一國としての關係からでもなく専ら極東に於ける日本との衝突といふところに觀點を置くのである。

英は露佛軍事協定や東方ロカルノの協定に好意を持たなかつたものであるが、昨今は態度を一變して寧ろ之を支持するの色を示し來つた。本來露佛協定乃至東方ロカルノ協定は獨逸の包圍を目的とするものであるから英國が露佛協定を支持するに至れるを見て、獨逸を離れて露佛に接近

したものと考へる者があるけれども倫敦外務省の目的は露西亞を聯盟の内に包括し、歐羅巴諸國との關係を密にし之をして力を専ら極東に用ひしめんが爲で獨逸が目的でない。固より佛國は之を以て英國も遂に獨逸包圍の陣營に加はりたるものと解して居るであらうが、英の對露接近はそれ程單純でない、佛はバルトウ以來露西亞懐柔に努め、今日では兩國間に軍事協定を締結するまでに進み、その上露西亞とチェツコとの間にも軍事協定が成立し、歐羅巴の外交的並戰術的情勢に多大な變化を與へては居るが、歐羅巴全體からすれば英露接近の今後の影響は更に大きなものがあらう。

同じく露西亞に接近するとしても英と佛とは全然立場を異にして居るのであるが兩國とも露西亞に對してはボルシエウイズムの害と露西亞を外交的に利用することを混同せず、之を分けて考へて居ることは注目すべきである。英國はモスコイ政府の赤化宣傳を恐れざるものではないが、赤化の害を防ぐ爲に之と絶つよりも、之と結んで日本を撃つさせることが目下の急務と考へてゐる。

英も佛も心から安んじて露西亞に接近せるものでない、不安の點から言つたら國內に共産分子



の多い佛國の方が英國よりもつと甚しいに相違ない。それにも係らず兩國が露西亞と握手するはそれ／＼止むを得ざる事情の存し、英國としては特に痛切なものがあつた爲であらうが、ここで注意して置き度いことは獨逸にとりては日本は歐羅巴に遠い國であり、將來に於ても又然るべきことである。

世には獨逸の外交を傷けんが爲めにはどんなデマをとばしても良いと心得て居る者がある、最近モーニング・ポスト紙は獨逸は日本と秘密軍事協定締結の交渉をなしつつありと報じた、此の如きは故意に獨逸を傷けんとするものでない限り、偶々以て英國人が極東の政情に對し奈何に神經過敏になつて居るかを語るものである。同時にこの虚報は英獨の離間を目的とせるものである。獨逸は日本國民を尊敬し、日本人の赤化防止にも大なる理解を有するものである。然り乍ら獨逸は畢竟極東問題に直接の利害を有しない。従つて何れに味方するかといふ問題は始めから起しやうがない。獨逸は徹頭徹尾歐羅巴の國である。我等の過去も現在も未來も歐羅巴にある。

獨逸なくして歐羅巴はない世に何ものも獨逸を歐羅巴なる有機體より引離すことは出来ない、獨逸は歐羅巴に對し權利を有するとともに義務を有する。獨逸は歐羅巴本位を以て終始するものであることを此に確言する。

### ソ領極東の戦備 (獨逸ターゲブラット紙所載)

「モスクワよりの報道に依れば、ソ聯政府は今春東部西伯利亞に於ける戦争の勃發を豫期し、貝加爾湖、浦鹽間の地域に於て之が準備に忙殺されつつある。即ち防禦線の築造、大規模なる軍隊及軍事材料の移動を敢行するのみならず、事變に對し住民の好意を繋ぐ工作を進めてゐる。現に極東旅行中なる交通人民委員カガノヴィチ氏はスターリン氏直接の命令に依り極東地方官憲に農民の支持が戦争の運命に重大關係を有することを諒解せしめることに努めつつある。更に同氏は農民の不平を聴取し緊急の場合には之が救済を計る任務を有する趣である。一方チタ地方ソヴィエトに對しては黒龍州、後貝加爾兩地方に於ける一切の徵發を即時停止し、農民が一定物資を自由取引に依り赤軍に供給することを妨げざる様訓令せられた」

## 日支問題と海外の輿論

日支外交の展望 (天津大公報社説)

日支外交は目下停頓状態にあるが、近い將來には全く望なしとは云へない。過去を顧みるに、支那は對日交渉に於て比較的統一した主張を堅持して來たが、日本は軍部、外務往々にして對立を示して居り、之は大使昇格問題や北支事件に於て明かに看取された。所謂廣田三原則に關する支那側の疑點に對し日本政府は何等の應答を與へて居ない。日本は終始華北の特殊地位尊重、日滿、支三國間の特殊關係の承認等を口にするが、之は一に支那の分解作用を促進せんが爲に外ならない。日本政府は冀東政府の組織に成功すれば同様な工作を綏遠、山西兩省にも及ぼさうとし更に福建省にも北支の自治運動を宣傳し、又中央と西南との疎隔に努めて居る。日本では、聯盟及海軍會議を脱退して以來「力は即ち正義なり」との主張が國內に横溢して居る。此の際支那が日本と無條件の軍事經濟同盟を結んで日本に隸屬する結果に至ることを我々は深く惧れる。茲一

年來の日支關係調整の呼聲は次第に幻滅と悲哀とに化せんとしつつある際、全國上下の猛省を促す次第である」

### 日支交渉開始の鍵

(上海ジュルナル・ド・シヤンハイ社説)

「近く南京に重要日支交渉開かるる筈であるが、右會議が萬一纏らない時は日本は更に強硬手段に出るであらう。目下歸朝中の磯谷武官は排日抗滿の中止を同交渉開始の前提條件として居る旨傳へられて居るが、日本側の眞意其處に在りとすれば交渉は容易に開かれまい。日本が北支の完全なる自治を目標とせることは、最近の天津に於ける日支折衝に依り明かである。廣田三原則の最重要なるは第三項即ち共同防共換言すれば對ソ聯合作であつて、南京にして右に應ぜざれば日本は然るべき方法を以て北支各省に之を受諾せしむべく努むることとならう」

### 日支問題の複雑性

(天津大公報社説)

「日本政府は滿洲事變以來倫敦海軍會議脱退に至るまで終始自主的外交政策を堅持して來たが、畢竟東亞の覇權を把握し支那の運命を制して東亞の安定勢力たることを各國政府に容認させよう

とするに外ならない。而も支那の國際關係の複雑なるは日本政府も認識し、廣田外相も最近國際的に解決を圖らうと期するに至つた。支那は日本に於ける政治の主流を見極め、日支兩國中央部の意見交換に際しては先づ交渉相手の決定を要求し、支那の分割を主張する一部急進論者の偏見を矯正せねばならぬ。日本出先軍憲は公然支那の地方當局に對し中央との分離を要求して居るが國民の總意に反して何の交渉があり得るか。國民の總意を無視する結果は國內の紛擾を増すだけであらう。次に日支兩國間に於ける懸案解決の爲日本政府は國際的陣容を整備して居る。支那も宜しく國內の大計を出先に訓電し十分能力を發揮させねばならぬ。敢て云ふ、内國論を統一し且相應の陣容あらば外交上に必ず爲すあり、日支兩國關係の複雑性も恐れる所ではない唯だ進まざるを恐る」

#### 日支國交調整の要提 (上海チャイナ・プレス紙論説)

二月十二日東京發同盟は有吉大使は廣田大臣に對し日支外交一元化の必要を進言せる旨傳へ、之に關し二月十四日のチャイナ・プレスは論説を掲げ「右は本紙の夙に強調した所であつて、本

紙は更に大使に於て、右の趣旨を一層明瞭にせられんことを希望するものである。又大使は客月末新聞記者との會見に於て、支那の態度如何に拘らず日本は公明正大なる態度を持せざるべからずと述べられたが、吾人は右忠言が抽象的のものに終らず實行に移さるることを切望するものである」云々と論じた。

#### 日本は何を欲するか (米國クリスチャン・サイエンス・モニター紙社説)

「若し日本人に「日本は何を支那に求めるか」と聞けば「誠實を要求する」と答へよう。支那が誠實を缺くことは日本新聞界が日本國民に對し再三吹き込みつつあるが、事實支那が政治的、軍事的に弱い爲カメレオンのような不得要領さと以夷制夷策を事とするに至つたことは疑無い。然し又日本が支那に對し一層具體的な目的を持たざることも疑無い。軍部は戰略的見地から滿洲國の安全保障、共產主義撲滅に依り支那の鐵道及北支の行政組織を完全に統制することを期待し、外交界は東亞に於ける日本の優越的地位を強調し、實業界は日本品に對する市場及原料品供給の源泉として支那を見ようとする。要するに支那が國內の秩序を維持しつつ而かも日本の要求に反

對する程強力ならざることを日本は希望すると言つて間違ひない。又經濟的には支那が繁榮しヨリ多くの日本品を買ふことを希望するが競争者として工業的に發展することを希望しない。然し斯かる計畫が實現し得るか否かは極めて疑はしい。此の點に關し日本外交部並軍部は戰後佛國政府の獨逸に對する政策を考慮せねばならぬ。當時佛國政府は獨逸が國內秩序を維持することを望んだが、佛國の利益を脅かす程強力化することを欲しなかつた。支那が近い將來優秀な軍隊を持つ好戰的な國家となる可能性は無いが、若し日本の壓迫が支那の傳統的柔軟性の限度を越せば日本に取つて悲惨な結果を招き、日本が支那に對し比較的穩健な政策を執る場合には、地理的に接近し經濟的能率に於て優れてゐる關係上、商業上の希望を實現出來よう。日本の財政的其の他の制限を顧みずして亞細亞大陸征服の遠大な計畫に着手せんとすることは、究極に於て日本の國民的利益に對する最大の敵であらう。」

### 孤立せる日本の行方 (米國、華府ポスト掲載)

三月二十三日華府ポスト掲載の「孤立せる日本」と題するリヴィングストン・ゲートリー氏

の特別寄稿は、先づ日本のパリテュー要求は國家的威信の問題と對支政策の窮極的成功を期する爲、西太平洋に於ける其の戰略的地位を優勢ならしめんとする動機より出たものと爲し、日本の海軍會議退後の地位は恰も壽府に於ける伊太利の地位に比すべく、列國共同の反對に直面し政治的孤立に陥つた一方英米海軍の協調を助成したと言ひ、英米は今後日本の海軍擴張に對し共同行動に出るのみならず、極東に於ける利益保護の爲にも提携すると見られるが、現行條約失效後に於て英國が香港に海軍根據地を設置し、米國が、アリューシャン群島に航空根據地を設置するやうなこととなれば、前者は日本の長江沿岸及南支に對する勢力伸長に影響すべく、後者は最近に於ける飛行機の發達と相まち日米間に於ける現存戰略的地位を著しく變更するに至らうと述べ日本現下の國際的地位を以て極めて危き狀況に在るものとなし、其の遂行しつつある對支政策は極東に於ける英米の利益を侵害するのみならず、延いては太平洋に於けるアングロ・サクソン民族を脅威する外ソ聯に對しても直接の脅威を與へ、又一面支那四億の國民の敵對行爲を誘致しつつあるが、右は日本が他國と戰爭する如き場合特に危険なる要素となるべく、更に今次の均等海軍要求は英米兩國との間に新たなる紛議の因を構成したと評し、日本若し右の如き事態を緩和せ

んとせば對支政策を變更するか又は海軍競争を回避するか二者其の一を選ばねばならぬ處、脱退の際に於ける永野全權の聲明に依れば日本は後者に依ることに決定したらしいと論じた上、日本のパリテイー要求は威信の爲とせば既に現行條約を廢棄したる以上或は海軍擴張を爲すことなく所謂「ピース・ウイズ・オナー」にて満足するやも知れず、然らば米國に於ても善隣主義の一助として何等の實益なき移民法の廢止等の措置に出で得べく、右は東洋人の心理日本の威信に對する重大なるジエスチユアで、今後生ずることあるべき太平洋上の紛議除去に資し得ようと結んだものである。

## 日本商品と世界市場

廉價日本品の競争を見直す (米國ジャーナル・オヴ・コマース紙)

ジャーナル・オヴ・コマース紙は「日本品競争の性質」と題し日米貿易關係に付左の如き論説を掲げた。

「日本品との競争に付て一月二十七日公表された關稅委員會の報告は國際通商上日本の特殊的作用を明らかにした。日本の輸出品中生糸は次第に減少し安價な工業生産品が其の代りに増加して來たのは周知の事實であるが、關稅委員會は之を以て日本工業品の競争領域は増加したけれど之が米國工業家に對する脅威ではないと見てゐる。日本工業輸出品の大部分は品質劣等且廉價で高級米國品を買ひ得ない人々に買はれてゐる。従て廉價日本品は高級な國産品と性質を異にする故必ずしも國産品に對して競争的立場に在る譯ではない。關稅委員會も此の點を指摘し次の如く述

べた。

「廉價な日本輸出品に對し米國內にも之に匹敵する非常な廉價國産品があれば初めて一大脅威に當面する譯であるが、米國に同様の廉價品なき限り日本品は必ずしも同量の國産品を駆逐するものでない。

此のことは中南米に對する日本輸出品に付ても言ひ得る。日本輸出業者は廣大な新市場を開拓した然しそれには一大弱點がある。即ち内外の經濟状態と改善と共に廉價な商品の重要性を減ずる傾向あることで、高級品の競争に堪へられぬ場合には日本は現在の市場を失ふこととなる。

日本の輸出品が生糸から工業品に轉じたことは同國の輸出上に重要な關係がある。生糸は純然たる同國産品であるが工業品の大部分、殊に綿布、ゴム製品、錫其の他金屬製品は原料を海外に仰ぐが故に、此等商畫の輸出激増は必然に其の原料品の輸入激増を來し、日本輸出品の變化は米國にとつて有利である。一九二九年日本の米國よりの輸入額は米國の總輸出額の五分を示した處一九三四年には一割となつた之に反し日本の對米輸出が米國總輸入額の一割から七分に減じたのは生糸の下落が其の一因を成してゐる」

斯様に關稅委員會の報告は廉價な綿布の如き商品に付ては日本は米國の有力な競争者であるが工業品の大部分に付ては兩國は競争的立場にないことを示してゐる。此の状態を良く理解すれば兩國の通商關係は増進されるであらう」

### 日本との貿易競争は決して憂ふべきでない

(米國紐育タイムズ紙社説)

「日本との貿易競争に關し一大強硬論の行はれた末、米國關稅委員會が公平且權威ある研究を發表したのは誠に痛快だ。關稅委員會の報告に依れば、最近二、三年間に日本が米國市場に對し從來輸出しなかつた多種類の商品を輸出し始めたことは事實である。然し此等商品の多くは低級品で時には米品産國中の何れよりも品質粗悪である。報告中の表現を借りれば「此等日本品は必ずしも常に同分量の米國産品を駆逐したものである。其の輸入に依つて充たされた需要の一部分は此等の日本品が非常に廉價でない限り永久に充たされずに終つたであらう」から、加之日本品輸入の反面には大なる利益が存する。蓋し經濟的國家主義の性質は恐らく他國を單に競争者と見

るだけで必然之に伴ふ所の顧客としての彼の役割を忘れる點にある。日米兩國間の貿易は金額に於て一九三一年及一九三二年以來双方共に顯著な増加を示した。(とて別項「モース」同様の日米間貿易の數字を引用し)一九三五年十一月末現在迄の十一箇月間に於ける米國の對日輸出は前年同期に比し多少減少し輸入は増加したが、尙日本よりの輸入は一億三千九百萬弗、日本への輸出は一億七千六百萬弗であつた。要するに問題は外國市場に於ける日米兩國產品の競争であるが、委員會報告に依れば一九二九乃至一九三四年間に日本の綿布輸出は支那及印度を除く殆ど總ての國に於て増加したに反し、米國の綿布輸出は殆ど總ての市場に於て減退を示した。尤も日本が最大の進展を示した中南米の諸國と雖日本の總輸出額は米國の夫れに比すれば依然些細な額に過ぎない。米國の對外輸出が減退したことは外國市場が絶對的に縮少した爲で、何も日本其の他の競争に起因するものではない。

關稅委員會の報告拔萃に誤つた印象を與へる點が一つある。即ち對日輸出は他の多くの國のそれと異り今や一九二九年の標準を超過した旨を述べてゐる點がそれで、成程「圓」を標準として言へば之は正しく、日本の平均輸出月額は一九二九年の一億八千萬圓から一九三五年には二億圓

に増加した。然し同時に「圓」それ自身下落して居り金本位時代から見れば三分の一強の價值しかなきことを忘れてはならぬ。(外務省情報部國際事情に據る)

## 廉價日本品の秘密をつかむ

日獨通信主筆 アルビト・バルグ

戯曲カルメンの女主人公の前身は西班牙の煙草工場に働いてゐた女工でビゼーは、それをモデルにしてあの戯曲を作り上げたものである。日本ならあんな女は見つからなかつたであらうし、日本の女工をモデルとしたらあの戯曲は非常に異つたものになつてゐたのであらう。私は今日、日本煙草工場で千百人の妙齡の女工が働いてゐるのを見た、併し情熱的な西班牙の女がつましくやかな日本の女工を見たら不思議な思ふであらう。そこには輕快な脚もなければ、生物のやうな腰もなく、もとより男を虜にする媚の瞳もみられない。

こゝではひたむきに労働が続けられるばかりである。眼は仕事の上に注がれてゐて、そはくと探し見るやうな眼には一つもぶつつからない然らば口は？ カルメンならおつたまげて「あんな達變なマスクなどをかけて怎うしたの！ 碁石のやうな美しい齒など、見えやしないじやないの！」と叫ぶに相違ない。

然しながらこれには理由がある。日本の女工がマスクをつけてゐるのは塵埃とバイ菌とから呼吸器を保護する爲であつて、萬事が事務的であるから、假りにカルメンに逢ふことがあつても、尋ねることは仲間の浮いた話でなくて、西班牙では就業時間が何時間で賃銀がどのくらゐ、工場の設備が行届いて居るかどうか、といふやうなことばかりであらう。

それといふのは日本の女工さんは工場では近代的な女の労働者であり、家に歸れば大人しい唯だの娘さんなるが故である。

工場へ出るのは朝の七時半で、晩は四時半迄働く、此の間四十分、十分、十分と三回合計一時間の休けい時間があるばかりだ。華美なキモノをつけたり頭髮にバラをはさんだりしてゐるものは一人もなく、白いエプロンに水色の帽巾といふ一様の工場服をはをり、手にはゴムの手袋をは

め、口には前にも述べたやうなマスクをかけて居るが、これは各自の自由で、かけてゐる者もあれば、然らざる者もある。キモノは工場へ着いてからぬいで戸棚へしまふ「ゲタ」は下駄箱へ入れ、傘は傘立てにたてる。キモノの戸棚は千五百もあつて、一々錠前がついてゐるが、錠のかゝつてゐるのは二十に一つ程の割合だ。日本ではかうして置いても盗まれる氣遣はないから錠は要らないのだ。

子供のある者は子供を連れて工場へ行き、托兒場へ托する。托兒室の壁には美しい繪がかいてあり、熱練な嫁母が小さい者の世話をなし、食事をさせ教育をなし、一所になつて遊んでやる。食後はベットで休ませる。私の訪ねた時は子供達がからだを並べてベットの上に眠つてゐた。

夕方連れて歸る前に母親は子供に御湯をつかはせる。風呂場は廣くて綺麗な水が絶えず流れて居る。シャボンを洗ひおとして大きな浴槽へ這入るのであるが、日本のお湯は熱くて歐羅巴人にはとても我慢が出来ない。

かくの如く日本の女工は完備せる衛生設備を有し、行きとよいた社會的施設のうちにあつて立ち働く近代的な女の労働者なのだ。一時間の給金が二、三十錢であるから、日給にして二圓、日



躍祭日を除いて約五十圓の月給となる。無論これだけではやつて行けまいと思ふが、そこに日本品の廉價な秘密が潜んでゐる。それは全然日本の家庭制度に基くものであつて、一人の収入が少くても家庭が八人もあつて皆で月に二百圓も稼げば、中に一人や二人失業する者が居ても裕にきり抜けて行ける。日本の家庭は相互扶助の固い組合のやうなものである。日本は目下好景氣の浪に乗つて居り、世界のうちでも失業者の最も少い國である。もつともいつまでもこの景氣が続くものではないことは明かであるが、それにしても日本の家庭制度が失業保險制度を兼ねたものであつて、相當に失業者を吸収する組織を有する以上不景氣になつても他の諸國のやうに救済に悩まされることはあるまい。日本の政治家が家族制度の維持に大童となつてゐる理由は當さにこゝにある。いまの家族制度は永遠に存立し得るものでなく、若い者が個人の自由を主張するに至つて必然的に崩壊すべき運命にあるものではあるが、そこへ達するまでにはまだ遠い時の隔りがある。

私の訪ねた工場は「ナリヒラ」の工場で、場長のカネハラ君はいろ／＼と詳しい話をして呉れた。カネハラ君は大戦前獨逸に来て居たことがあり、獨逸の煙草工場をほめ上げた後、日本の工

場も獨逸から學んだところが多いと言つた「ナリヒラ」の工場で出来るのは紙巻煙草ばかりで、種類は三つ、そのうちの二つは兩切りで一日に千本宛仕上げられ、他の二つは口付で工場の一年度の産額は五十億本で日本で造られる巻煙草の七分の一に相當する、日本に於ける紙巻煙草の總生産年額は三百五十億本である。

「ナリヒラ」の工場には千四百人の職工がゐる。内千百人は女工で、三百人が男工である。賃銀は女工が前にも述べたやうに一時間二十錢から三十錢で、男工は三十五錢から四十五錢（百錢が一圓で、一圓は七十片である）月二回拂である。

「ナリヒラ」工場で出来る煙草のうち、一番安いのは兩切二十本入り十二錢（八片）口付二十本入り十五錢で、稍高級なものに二十本入り十八錢のものがある。だから此の工場で出来る一番良い紙巻煙草が一本〇、六片といふことになるのである。

日本では煙草は專賣になつてゐる。而て紙巻煙草一本の生産費は僅かに〇、四片にも當らないが、それでゐる私のやうな煙草好でも相當に喫めるから驚く。

工場では希望者に食事をさせてゐる。朝飯が十錢（七片）である。工場の食堂で食事するもの

が約五百人で、残りの九百人は辨當を持つて来る。男工の年齢は十九歳から五十五歳で平均年齢が二十七、女工は十九歳である。

## 平然と天災に堪へる沈着な日本人

グリムのお伽話のうちに恐いことを知らぬ男が恐いことを探しに家を出で、どこへ行つてどんなことに遭つても恐くなかつたが、最後に蛙やなめくじの這入つた桶をベッドへ持込まれて、はじめて恐がつたといふ念の入つた話がある。

此の男などさしあたり日本へ来るべきであつた。日本へ来て地震に遭つたら、直ぐに恐いことが判知つたであらう。こちらへ来る歐羅巴人には可なり氣の強い連中もある。これらの人々も来た當座は「今朝地震があつたね、氣がつかかなかつたか」と尋ねると、がっかりした様に「地震？今朝？些とも氣がつかかなかつた。残念なことをした僕はまだ地震なるものを知らないから一度遭つて見度いと思つて居たんだがな」と如何にも残念さうに言ふ。

ところが夫れから二、三週間も経つて地震の話を持出すと、もうそろ／＼變な顔をしはじめ、更に二、三週間も経つとすつかり參つて「地震つて、何んて厭なものだらう。此の頃は神經過敏になつちやつて復た揺れるかとそればかり氣になり出した」と弱音を吐くやうになるのが常である。

嵐は怪しい雲の去來に依つて豫知することが出来、洪水は水かさの増して行くのでわかるが、地震だけは前布令がなく、かう言つて居るうちにも此の家が崩れ落ちて下敷になる危険があるのだ。晴れ渡つた麗かな日中であらうと、燦然たる星の輝く静かな夜であらうと、夏であらうと、冬であらうと、地震には春夏秋冬、晝夜風雨の見さかえがないのだ。

日本は實に地震が多い。震源地を二百基米も離れて明かに感知し得る程度の強震が、一九三二年には五十回、三十三年が九十回、三十四年が二十回で、三十五年は七月までに既に四十回といふ多數に上つて居る。最近のものは一昨日午後の地震で、良い天氣であるから、ヴェランダに出て椅子によつて居るとユラ／＼と揺れて来て、家がミシ／＼と鳴る。すぐに庭へ飛び出す（用心に如くはなしだからな）此の時地下に起つた氣味のわるい運動が當さに水平の方向をとつて居る

ことに気付いたが、間もなく下からつき上げるやうな衝動を足裏に覺えた。これが危険な上下動といふやつで、水平動なら恐くはないが、上下動になると普通の者は顔色をかへるのだ。

地震はいつものより永く、それがやんだ時には長尻の厭な客を送り出した後のやうにほつとした氣持になつた。

三十分も経つと新聞配達が號外を配つて來た。静岡、小田原（東京から汽車で二時間）に地震があり、數百戸の家屋が倒壊、死者多數で、負傷者は勘定しきれない程多く、町中には火災が起り、軍隊や飛行機が出勤して救護作業を始めたといふのである。

私は吐のなかで考へた。東京だつて何時そんなことになるか判知つたものではないと、そしてひそかに身のまはりの家具や他のめぼしいものに眼をやつたものである。こんなものが一朝にして亡くなつて了ふので、火災保険だつて震災の損害は明文を以て除外してゐる。それが爲にこの前の震災では多くの金持が乞食になつたんだ。

私は夜半でも目を醒まして復た揺れるんぢやないかと聞き耳を立てることが屢々ある。こんな時には枕を頭の上へ載せるんだ、而て着物は寝るときに揃へて置き、貴重なもの手提袋のなか

へ仕舞込んで何時でも持ち出せるやうに仕て置く、大きな會社では時々防震演習が行はれ、家庭では地震があつたら表へとび出すこと、それが出来なければ室の中央を避け戸口へ寄れといふやうに、ふだんから言ひ渡してある、凡そ日本人の地震に對する用心は至れり盡せりである。

然しながら、いざ事が起つたとなると、誰でもあわてる、地震のあつた當坐は用心もするが、暫らくすると人間の淺ましき「こんなことを毎日してゐられるものか、まさか今晚は地震はあるまい」と言つて氣を緩るめ、用心を忘れて寝て終ふ。之も無理のないことだ。

大戦當時のことを考へて見てもさうであつた、一度爆彈投下があると、その時は色をかへて驚くが、その恐怖の下からもうやつて來ることはあるまいと言つて恐さを忘れたことは私達にも経験がある。一九二三年の京濱の大地震には四萬人の死者を出した。地震學から云ふと大震災は約五十年目に繰り回されるといふ。これを聞くと大震災から數へてあと三十八年間は大丈夫、大きな地震はないと決めて終ふ。併しその道の人に聞いてみると、實際は何んにも判らないのだ。地震の豫測は今日の科學では不可能なんだから、結局大地震は一時間毎にでも繰り回され得るものだといふことに歸着する。

かうなると神經過敏にならざるを得ない。ミシリといふ音を聞いたとけでまた地震かと思つて夜半にとび起るのも決して無理でなければ、活動館で映畫を觀て居る間にも、瓦羅くくと天井が落ちて來はせぬかと不圖心配になるのも神經過敏とばかりは言はれまい。

日本の家屋は震災を頭に置いて造つたものである。日本の家は上へ延びずして横に擴がつて居り、低くて軽い。而て直ぐに表へ飛び出せるから、下敷になる危険は日本家屋には少ない、その

代り火災の危険が多く、地震となると、あちらでもこちらでも火が出る、火鉢がひつくり返る。破れた瓦斯管から洩れる瓦斯が引火する。而て家屋が材木と紙だから、全市が忽ちにして焔の海と化する。同時に日本の大都市は敵機の空襲には恐ろしくもろいものであらうことが想像される

が、近頃は建築の方で耐震といふことが第一に考へられる。震災後出來た京濱の大きな會社、官衙、デパートの建築は震災があつても安全なやうに造られて居ることである。そして人々は安心してゐる。然しながら六階、七階、八階といふ仰いで目の眩む程高い石造のこれ等の建築が果して云はるゝ如く地震に對して完全なものであらふかと思ふと、全身が寒くなる。

日本家屋が地震の經驗に基いて發達せる如く、地震は日本國民の性格を造つて居ると云へやう

災害に處しても沈着の氣象を失はず、平氣でそれに耐へて行く、この氣象は大古の昔から日本人の血と肉とに浸潤してゐる。繁華な都市が天災の爲めに一朝にして打ち壊されることがあつても愚痴一つはせず、翌日から復興の事業にとりかゝる日本人は、實に言はずして行ふ力の國民である。

一九二三年九月一日の横濱の震災報告を讀むと、その日の正午に發せられたものは「横濱は激震に襲はれた」であり、午後には「横濱は三百個所に火災が起つた」と報ぜられ、翌日の報告には「横濱はもはや存在せず」とある。此の間凡そ生きとし、生けるものが残らず死滅したかのやうに大きな都市の廢墟に墓場の靜寂が漂つたが、それから三日後の報告は「市會が横濱の復興を決議した」ことを報じ、八日後には「京濱鐵道の復舊が」着手せられ、更に三日後には「震災後最初の列車が横濱を出發して」三時間後に東京へ着いてゐる。

かくの如くにして京濱交通の動脈が再び鼓動を始めると、それから巨人の歩を以て復興事業が進められ、横濱は今や火の中から生れ出たフェニックスの町として以前にも優つた殷賑振りを見せて居る。

「天災の力は畏るべし、然れども世若し之より更に強きものありとすれば、それは黙つて天災に堪え行く人間の勇氣である」

凜烈な北海の濱に集まつて居た我等獨逸人の祖先は、かく言つて荒き自然の風浪と闘つたものである。日本國民のやうに火山の上に住むで居るものは奈何なる天災にも屈することなきやう自然の陶冶を受けるのであらう。

## 日本に於ける金満家

近時産業日本の社會には舊大名にも劣らない富豪が現出して居る。所謂百萬長者である。長者の兩大關は三井三菱の兩家で、納税額の高きことに於てもこの兩家が筆頭である。三菱本家の久彌・岩崎男の今年度の所謂納税額は五十一萬圓、従弟小彌太・岩崎男か四十二萬五千圓である。三井男は前年度が九十六萬六千圓、今年はグツト下つて三十二萬六千圓となつてゐるが、これは三井家が全所得を十軒の同族に分配することになつた爲である。久彌・岩崎男の前年の収入は二

百三十萬圓(?)で之を日割にすると、昨年は日に六千二百圓宛の金が岩崎の金庫へ轉り込んでゐたことになる。

右の數字が日本に於て何を意味するかは、岩崎男の一日の収入が總理大臣の一年間の年俸に略ぼ匹敵することに依つて察知される。首相の年俸は月額六百圓で所得税が四百七十圓である。

一般に言つて官吏の俸給は極度に低い。外務大臣の年俸は月額にして五百圓、參事官が四百圓若手の書記官は二百圓であるが、教育方面になるともつと甚しく大學の教授は月二三百圓であるが、小學校の教員は六十圓から七十圓である。

併し物價は割合に安い、家賃の如きも日本家屋なら市内でも八室で五十圓乃至七十圓、郊外なら三十圓見當、食糧は腐る程豊富で八百屋の店頭をかざる野菜や果實は見た眼にもうつくしく、魚類は殊に種類が多くて安い、鮭は上等飛び切りといふところで、一封度を買つても二十片より高いことはなく、獨逸などではとてもお目にかかれぬ大きな蜜桃が一個三片、男子用洋服が一着四十圓といふところだが、他の所屬品殊に靴は獨逸に比べるとウンと高い。特別に安くて買度いと思ふものは何といつても絹製品である。概して歐羅巴人なら四人家族で月五百圓(三百五十マ

ルク)あつたら生活は出来やう、伯林なら六百マルクといふところだ。

五六

## 士道を失はぬ日本の商賣人

どうしても日本人は商賣人ぢやない日本が世界を相手に手廣い取引をなすやうになつても、又その工業が國際市場を征服するやうになつても日本人はやつぱり商賣人にはなり切れない。日本人は漁夫、農民、武士として久しくこの嶋に生活して來て商業には興味を持たなかつた。而してこの商賣ぎらいの風が今日の日本人の血のなかにも残つて居るのだ。

牧狩の民でも立派な商業民族になるものであるが、日本人はさうではない。他の諸國では商人と云へば鵜の目鷹の目で客をねらひ、一度つかまへたら容易に離さないが、日本の店ではそれがあべこべである。風は表から這入つて裏へ抜けて行つても誰も氣にとめない。日本の商人は顧客を風のやうに考へて居る。客は棚から棚へ、品物から品物を逐うて店のなかを歩きまわり手にとつて看れば、レッテルの裏をかへして見もする。それでも店の者はトント知らぬ顔をしてゐる。

これは押賣するといふ感じを客に懐かせない爲めの心づかひに基くものであつて、押賣しないといふことは、日本では商賣の原則となつて居る。而て之が反つて日貨の世界征服を可能ならしめた一つの原因ではないかと思はれる。

買物をせずに、一度はいつた店を出て來るのはきまりの悪いものだが、日本ではそれが無い。ほかのところでは足を踏み入れただけで何か買ふべき義務を負はせられたやうな氣がし、買はずに出て來ることが出来ないから店へ這入るまでには十度も考へるものであるが、日本ではそんな必要はない。私は神戸で大きな絹商人の店頭を約三十分もあちらこちらと歩き廻り何にも買はずに出て來ると、美しい箱に入つた半ダース入りのハンケチをくれたものだ。それも外國の新聞に出て廣告になるからといふ功利的な考からではない。

一方からいふと買はずに出て來ることの、これ程容易な日本の店ほど氣輕に這入つて行けるところが世界中どこを歩いてもないといふことになる。日本の店では主人なり店員なりが自分から客の方へやつて來ることはないが、こちらで欲しいものがあるといふことを知らせると、看たいと思ふものを悉く持つて來てくれ、相談にもものつて呉れるが、それでゐて決して押賣をせず商人

五七

といふよりも寧ろ顧客の相談相手といふやうなところがあり、品物を賣つけるやうな氣持はいささかもない。「お氣にいつたら御求め下さい、こちらでは御徳用な品をさし上げるだけです」これが日本商人の客に接するときの心構である。

東京の花である銀座の大通で、大きな金物店へ這入つて一挺のナイフを買つた。あまりにも綺麗な出来であつたからもう一挺買はうと思つたら、店員はそれが私の氣紛れではないかを氣づかうものゝやうであつた「もう一挺？ お若いの！ ピカ／＼光つて居るとて要らぬものまで買つてあとで後悔するやうなことがないかね」店員は肚のなかでこんなことをつぶやいて居るやうに思はれた。

氣乗りのしない様子で硝子戸棚をあけてくれた、なかには大小さまざまのナイフがさん然と光を放つて竝んで居た。私はそのうちの一挺を選んだ。店員は困つた顔つきをしてゐたが、私が外にもう一挺のものを求むるに及んで店員はすつかり悄けて了つた。私の購買欲を濫用したとでも思つてすまない氣持になつたものらしい。私は外に二挺のナイフと一臺の電氣ゴテを買つた。ひつくるめて十圓の七マルクだが店ではハラ／＼してゐた。ナイフはもう一度双をつけやうかと聞

くからよく看ると小刀の刃のやうに尖つて居たけれども、いふが儘に砥いでもらふことにした。

此の日は約束の時間があり、待つて居る人が居て、その上他に買物もあつたから、急いで居たが、かうなるとその儘出て來ることも出來ず、再び帽子をとつて足をとめたが双付の模様之れまた極めて興味の深いものであつた。

電氣ばたんを押すと小さなモータが弾んで砥石が廻轉し始める、それが華かな店の眞中では行はれるのである。若い店員はジグフリードが鋒を鍛ふやうな姿でナイフを砥いだ、かうなつて來ると店はもう近代的な商店でなく、銀座はもはや世界都市の中心市街でなく、店員はもはやモダンな服装をした事務員でなくなつて、そこには日本生粹の鍛冶屋組合の傳襲が姿をあらはして來る。店員は周圍の世界を忘れ、まばゆく光る鋼とそれより發する火花のうちに魂を打込んで此の國の昔ながらの鍛工の姿を示した。鍛冶は日本では最も古い而て最も貴い職業の一つとせられ、十一月八日には今でもいご祭が全國を通じて賑かに執り行はれる。

他の顧客も立ち停まつた。外に立つて居た人々までも這入つて來て、皆の視線が工作者の手に注がれた。細身のナイフは電氣魚の如く砥石の上を泳ぎ火花を發した。それを水のなかにさ

し込み、とり上げてから乾かして今度は他の砥石にかけて砥ぎ水に入れて最後に磨きをかけるのであるが、この工作を四挺のナイフに施し終つた時は裕に一時間かかった。

出来上つたナイフは遠い世界へ旅立つものゝやうに丁寧に包装された。併しそれをすぐに持つて歸ることを許されない。後から届けるといふのである。

ナイフは三人掛りで私の宅へ持ち込まれた。一人は式部官として先頭に立ち、一人は包装を手で捧げ、一人は不調法のないやうに、肝を煎る附添役である。電気ゴテは木箱につめてあつたがその箱がまた何にでも利用出来る程磨き出した綺麗なものであつた。

歐羅巴人ならば普通こんな場合に心付をやるのが常である。ところが日本ではそんなことをしてはいけない、それを知らずにいくらかのものを握らせたらこの三人の店員は氣をわるくしたに相違ない。私もまだ日本の事情を知らなかつた時、非常に良く用達をしてくれた當年とつて十二歳の男の兒に心付をやつたが取らない、いろ／＼言ひきかせ肩を叩いて掌に握らせやうとしてもどうしても承知せず、御辭儀ばかりして居て困つたことがあつた。これが伊太利とか埃及とかであつたら先方から催促するんだから、日本人はさつぱりしたものだ。

ある時電車に乗つたところ、女の車掌は丁寧に道を教へてくれたりした、私が切符を買ふ爲めに十錢の白銅を出すと、車掌は前にかけてゐる鞆を探ぐつたが、三錢の釣錢がまとまらない、凡そ世界のどこへ行つてもこんな際には釣錢はいらないと言ふのが普通であらう。そこで私も當然のこととして釣錢は君がとつて置いてくれと言つた。然るに女車掌は三錢のおつりをつくつて私に返すまで車から私を降ろさなかつた。私はこゝでも恥をかいたものである。唯だ大きな外人對手のホテルでは近頃事情が變つて来て心付をやつたり貰つたりすることになつてゐる。

## 日本人の行樂花見に就いて

(獨逸フェルキツシエルベオバハター紙掲載)

時は當さに四月の始めである。東京では街頭といはず、公園といはず幽邃壯嚴な神社の境内といはず、麗かな春陽の光をうけて櫻の花が香ひ出る。お花見の季節は日本人の歡樂の季節で、男も女も老も若きも表へ出て咲き出づる花の華麗を嘆美する。



日本の櫻の美しいのは數世記に亘る人工培養の結果であつて、その爲め日本の櫻は花は綺麗になつたが今ではもう實がならない。

日本では櫻と菊は古來花の王とせられ、國民のうちには櫻を家の定紋として絹のキモノに縫ひ込んで居るものがある。歐羅巴では動物を定紋とするが、極東では花が欣ばれる。

日本の皇室の御紋章は菊であつて、李王家の自動車には番號の代りに李花がかゝれてあり、滿洲皇帝の御紋は蘭である。

花の頃になれば交通の頻繁なガソリンの臭渦まくビジネスセンターにも櫻が咲く。宏壯なデパートの窓に、レストランに喫茶店に、地下鐵の墜道のなかに飾られる造花の櫻がそれであつてこれらの花も眞實の櫻と見まがふ程美しく、觀光にやつて來たアメリカの眼の悪いお婆さんが銀座でそれとは氣がつかず飽かず眺めて居るうち危く自動車に敷かれさうになつた程だ。

さりながらお花見は日本人の生活の一面である。日本人の生活がこゝにつきて居ると思つたら大間違だ。これで居ていざ民族の生存競争となると日本人は恐ろしく強腰になるんだから、櫻が咲くと、どこの家でも仕度をなし子供を率ゐてお花見に出かける。私は會社の職工の家族と

一しよに出掛た。女子供はタキシードのなかへ折り重なつて乗込んだ。運轉士は職工の甥であつた職工は家長らしい威嚴を以て頭の上から女子供を見廻した。

「美しいぢやありませんか」花見の場所へ着いて、車から降りると職工はかういつた。女子供は口々に花の美しさを稱へて櫻の樹を見上げた。

職工は獨逸にも櫻がありますかと尋ねて、やがて女連は折詰を開き私達は小さな梅干と折に詰つた飯とを箸を以て快く喫した。身嗜みの良い女の人達は茶をつぎ、酒をさした。

「良いお天氣ですね」

多勢の子供を抱へ、一日臺所にくすぶつて、外へ出る時と云へば、年に一度のお花見だけである職工の妻君は心から春の日さしを樂むやうであつた。女の子供はキャツ／＼云ひ乍ら、散る花を拾ひ集めては樹漏れ日を照り返す池の面へ投げ込み、男の子は櫻の小枝をかざして跳び廻つた

「花は櫻木、人は武士」

(櫻花は凡ての花のうちで尤も美しい花であり、武人は人間のうち最も良い人間である) 老職工はかう言つて甥を顧みた。

男達は花蔭の茶店へ腰をかけた。朗かな笑聲と恐ろしい騒の音が聞えて来る。

お花見時は、日本人の陶酔の時である。外では提灯に薄い灯がともつて太陽は西にうすづき重くるしい花の香りが樹下に漂つて、時々はしやいだ藝者の笑聲が爆發する。小娘達はさし上る月を仰いで深い溜息をもらしながら戀の歌を口吟んだ。

私達は愉快に東京へ歸つて來た。

「ちや又明日ね」幾度も御辭儀を交はして私達は右と左へ別れた。

かくて花見の客はとりくくに會社へ銀座のバーへ、紡績の工場へ歸つて行く、之もお花見時だ明日から又眞黒になつて働くんだから

定價十錢

編者 讀書新聞社編輯部

昭和十一年五月九日印刷  
昭和十一年五月十三日發行

東京市牛込區矢來町九〇

發行所 上原政次郎

東京市牛込區榎町九

印刷者 多田靖彦

發行所 讀書新聞社

東京市牛込區矢來町九〇

振替東京二七四一七番

讀書新聞社編輯部編 四六判二四〇頁、定價二圓、送料十錢  
新誌聞 記者志願者必携

讀書新聞社編輯部編 四六判二四〇頁、定價五〇錢、送料六錢  
新誌聞 出版に必須な法規解説

讀書新聞社編輯部編 四六判二二八頁、定價五〇錢、送料六錢  
新誌聞 出版と經營の實際知識

讀書新聞社編輯部編 四六判七二頁、定價四〇錢、送料四錢  
新誌聞 の作り方と賣り方

讀書新聞社編輯部編 四六判九五頁、定價五〇錢、送料六錢  
印刷物の作り方と頼み方

讀書新聞社編輯部編 四六判一三八頁、定價五〇錢、送料六錢  
新誌聞 小賣店開業の手引き

附、古本の賣り方買ひ方

現代の華型商賣の一つ新聞雑誌の記者と  
なるにはどう云ふ知識が必要か？又如何  
なる手続きが要るか？誰にもわかる様に  
解説した書

出版物は社會に及ぼす影響が大きいだけ  
にその取締りも嚴重を極めてゐる。本書  
は出版をなすものには是非必要な法規を悉  
切に解説したものである

新聞雑誌書籍の出版は誠に有意義な事業  
であり、然もやり様如何では一攫千金の  
妙味がある。本書は出版業經營の全過程  
を具體的に説明したものである

原稿から書籍雑誌に仕上げ販賣するまで  
の複雑な全過程を誰にもわかるやうに解  
説した書

印刷物の作り方は専門の特殊知識を要す  
ることは勿論であるが、原稿を印刷所に  
頼むにあたり、如何に交渉すればよいか  
本書は著者永年の経験により書いたもの

書籍雑誌の小賣店は、コツさへわかれば  
誰にも出来る絶對安全な商賣であり、又  
將來にも益々發展すべきものである。本書は  
初心者にもわかる様、具體的に解説した  
ものである。

發行所 東京市牛込區矢來九〇番 讀書新聞社